

平成28年度 経営方針

「挑戦を持続しよう」

～会社の戦闘力を高めよう～

新年、あけましておめでとうございます。

昨年は世界各地でテロなども発生し、明るい一年とはいえなかったかもしれません。

今年はどんな年となるのでしょうか。当社では常に前向きに事業を発展させていき、

お客様さまのニーズに応えていきながら、明るい社会づくりに貢献していく所存です。

今号のニュースレターでは2016年(平成28年)度の経営方針を抜粋してご紹介します。



代表取締役社長

材木正己

「日東パワーアッププランFINAL」 達成のために挑戦を持続する

中期経営計画「日東パワーアッププランFINAL」は、日東パワーアッププランⅠ・Ⅱを継承し、平成30年に「締結・組立・計測検査における真のグローバルメーカー」となるための最終ステージ(FINAL STAGE)と位置付けています。締結・組立・計測検査分野における飛躍的成長への挑戦です。

そして、そのための基本方針は「強み(日東らしさ)を活かして 事業領域の拡充に挑戦する」こと。戦略テーマは、①事業力の強化 ②人財力の強化 ③グローバル力の強化 ④ブランド力の強化です。

従業員が有している潜在力(日東らしさ)を覚醒させ、全能力をフル活用して、飛躍的成長を図るとともに「稼ぐ力(＝収益力)」を強化して勝つ集団づくりを目指します。未踏課題への挑戦を持続するところに、緊張感が満ち溢れ、筋肉質な事業体質が創られます。挑戦の要素が消えた事業は、惰性に陥り低収益に甘んじざるを得ません。全事業部がシームレスな連携をとり、変化に敏捷に適応し、挑戦を持続していきます。

【経営重点】～会社の戦闘力を高めよう～

1. 組織能力を高めよう

～事業部、生販の連携で売上を拡大する～

企業間格差は個々の能力差ではなく、「組織能力」という無形資産にあると強く意識し、日東グループの戦闘力を高めます。「あなた売る人、私つくる人」といった分業発想や職能発想でなく、信頼という強い絆で結ばれた従業員の「共同組織体」の中に、利益を求めるという「目的」を組み込み、組織能力を高めていきます。

2. 挑戦を持続しよう

～小さな成功を積み重ねる～

「神は細部に宿る」といわれるように小さな成功を積み重ねることが大切です。かつて早すぎるという判断で採用しなかった過去の企画や、現状の手順の中に成長の芽「掌中のイノベーション」を見直し「挑戦を持続する」を実践していきます。

3. トリプルAを強化しよう

～敏捷性(Agility)・適応性(Adaptability)・整合性(Alignment)を合体させたトリプルAを発揮する～

変化の激しい経済環境に対応するには間髪を入れずの敏捷性(Agility)が求められます。と同時に顧客ニーズへの気づきと適応性(Adaptability)、併せて価値と価格の整合性(Alignment)が必須命題となります。これら3つの同時追求を強く意識してお客様のニーズに応えていきます。

4. ブランド力を向上させよう

～評判をマネジメントしよう～

従来、生産財の取引では、感覚的、衝動的な購買

行動はあり得ず、製品の良しあしを客観的、合理的に判断することによって決定されていました。ところが、近年の幅広い分野での技術革新で、異種業態の垣根を越えた新分野が創出され、技術や製品が高度化、細分化したことで、お客様の担当者でも細部までは精通していないことも多いものです。換言すれば「良いモノをつくれれば売れる」と安閑とするのではなく、お客様に対して自社の技術やサービス、製品の価値を伝えなければなりません。技術、製品

戦略に有用であることを、さまざまな角度から積極的にアピールする時代です。

つまり「絆経営」の核となるのはお客様との市場会話力を強化することであり、その評判がブランド力を向上させます。情報を複層的に発信し、当社は「我らの信条」の根底にある「誠実・信頼・感謝の心」を持ち続け、事業活動をしていくことで、ブランディングを強化していきます。

NITTO's CSR

一般社団法人 綾部工業研修所 創立50周年記念式典

一般社団法人綾部工業研修所が創立50周年を迎えました。

この綾部工業研修所は昭和41年、当社日東精工の呼びかけで設立されたものです。高等学校や専門学校などの公的教育機関でなく、また一企業の研修機関でもない「地域内における中堅技術者養成」のために生まれた、全国でも稀な民間教育機関です。当社から毎年講師を派遣し、これまで1500名余りの卒業生を送り出してきました。最近は産学連携で京都工芸繊維大

学などの協力も得られ、よりいっそうの広がりをみせています。

2015年11月に同研修所で行われた記念式典には、日東精工からも多数出席し、研究・技術担当取締役諏訪吉昭(綾部工業研修所理事長も務めます)が式辞、そして代表取締役社長 材木正己が記念講演を行いました。



新連載

われら NITTO'sグループ

日東公進

当社 日東精工の創業の功労者・四方重吉氏が興した個人企業がその前身です。「株式会社光工業所」「公進精密」そして昭和43年に現在の「日東公進」に社名変更しています。当社からの出向者も多く、合併という意見が出ることもありましたが「四方さんの恩に報いるために綾部で創業した会社は残したい」という、そのときどきの社長方針が代々受け継がれ、今に至ります。

日東公進の城山工場は、より高度な技術、高精度の製品をつくるべく、CAD/CAMシステムやマシニングセンタ、放電加工機など最新の仕事機器を備えています。また半導体関連製品にも対応すべく、クリーン度クラス1万のクリーンルームも設置、「半導体ウエハ搬送装置」「液晶用テスト装置」「精密チェッカ」などを製造してきました。現在は「自動計数包装機」「基板検査装置」「パワー半導体検査装置」「ねじ供給機」などを生産しています。

<http://www.nittokoshin.co.jp/>



環境に配慮、コスト削減にも貢献 「2015洗浄総合展」に「バブ・リモ」を出展しました

2015年12月2日(木)から4日(金)まで東京ビッグサイトで開催された「2015洗浄総合展」に当社、制御システム事業部の「マイクロバブル洗浄装置 (バブ・リモ)」を出展しました。

マイクロバブル (ファインバブル) 分野は産学連携などでも研究がすすめられ、工業用途だけでなく農業、医薬医療など幅広い分野での用途開発が見込まれており、当社、日東精工ではマイクロバブルを利用した「洗浄装置」を開発・製品化しています。

今回の「2015洗浄総合展」のキャッチフレーズは「洗浄は拓く、モノづくり日本」でした。そしてこの展示会が、ロボットのトレードショー「国際ロボット展」や先端材料とその加工技術を主体にした「先端材料技術展2015」、あるいは「2015部品供給装置展」などと同時開催されたことから、「洗浄技術」の発展が日本の最先端、次世代技術に必須であることがわかります。

「2015洗浄総合展」では、当社も参画している一般社団法人「ファインバブル産業会 (FBIA)」と共同出展したもので、マイクロバブルの潜在力をより訴求するシナジー効果も得られました。実製品を展示すると同時に、マイクロバブル発生 DEMO 機も置き、その実際の効力を体感いただけるようにし、多くの来場者の方にご注目い



たきました。

当社の「バブ・リモ」は水中で生成させた微細な気泡・マイクロバブルを利用した洗浄装置で、多量の有機溶剤や酸・アルカリ溶剤を消費するだけでなく、水と空気だけを使用ということでランニングコストの削減にも貢献できるものです。すでに自動車分野などで採用されており、今後も伸長が期待されます。写真は多機能型ですが、一槽型、省スペース型、バレル型、インライン型などもあります。



デモ機でバブルが発生。細かい気泡なので水が白濁したように見えます



ゆるみ止めねじ プレゼントキャンペーン実施中です

当社のゆるみ止めねじ「ギザタイト」を特別加工し、気を引き締める、集中力持続のシンボルとして、合格祈願用にプレゼントするキャンペーンを昨年度同様、今年度も実施しています。当社は生産財加工を主とするメーカーであり、ふだんはエンドユーザーの方と直接やりとりをすることは少ないのですが、このキャンペーンを通して多くの一般の方に当社のことを知っていただき、そしてねじの大切さや、モノづくりの大切さを次世代につなげていくものです。ゆるみ防止だけでなく、金色に輝く (成功イメー

ジ)、ねじ穴が十字 (プラスイメージ) であることに加え、今回は材料をアルミ

ニウムにしました。ティッシュペーパー数枚ぐらいと同じ軽さで、この軽量化ねじで「あまり重く感じずリラックスして本来の実力を発揮してほしい」という思いも込めています。

随時募集していますので、詳しくは当社ホームページをご覧ください。



自分の主観を客観化して 判断に確かさを加える 〜直感から直観に

将棋の天才といえば羽生善治さんを思い浮かべる方も多いでしょうが、その羽生さんが一目置くのが、加藤一二三九段です。

かつて神武以来の天才と呼ばれ、名人、王将、王位など数々のタイトルを奪取、75歳を過ぎた今も現役で活躍されているのですが、この元名人が好んで揮毫されるのが「直感精読」という言葉。ひらめいた一手がそれで正しいのか、百手以上も先、ときには7時間以上も考え続けることがあるそうです。

ところで「直感」は「直観」とも書きます。この二つの違いを説明できますでしょうか。前者は感覚的なこと、後者は哲学的、あるいは仏教（宗教）用語に使われることが多いようですが、「直感」は多くの辞書にあるように「自分の心に直ぐ感じる感性の働きです。でも本当にこれでいいのかとすぐに観直す感性を働かせることも大切。これを

「直観」といいます。『直

感と直観」の二段構えの感性と考えてみたらしょうか。

将棋の加藤一二三九段の「直感精読」をもう少し噛み砕くと「直感したことを精読していくことで直感が直観になる」といえるでしょう。心に響いた自分の主観を客観化してみることにあります。それでも主観の域は脱せませんが、判断に確かさが加わってきます。

論文テストなどを採点する立場で読んでみると、思いつきの範囲を出ないものと、確かな裏付けの存在を感じさせるものがあります。それは自分を客観化できているかどうかの差です。論文やレポート、企画書などは提出前に再読、誤字の修正だけではなく、この辺に視点を合わせたものです。

（経営コンサルタント・蒲田春樹）



『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したもの。書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものを随時ここでご紹介していきます。

ねじ大好き！ コラム

ねじの会社ですから、ねじと名前がついているだけでなんでも気になってしまいます。本屋さんで偶然見つけたのが『ねじまき片想い』。おもちゃ会社のプランナーである宝子さんが、片想いの相手のトラブルをこっそり黒子のように（そう、ねじのようにです！）解決していく恋愛小説です。「ねじ」そのものはあまり登場しませんが、「自分の心にねじを巻いてくれるのは自分だけよ」というセリフがキーワードとなって何度も登場。「行動しない人間は不安がる資格もないんだよ」といった前向きなセリフもいっぱい、山本周五郎賞受賞の瑞々しい作者の感性にふれ、気分転換できます。



柚木麻子著 東京創元社

ねじのある街・あやべの魅力



「鬼は外」でなく「鬼は内」!?

日東精工本社がある京都府綾部市には「大本」の本部があり、2月3日夕刻から4日にかけて、節分大祓い祈願が行われ全国から1万5千人を超える参拝者が訪れます。「鬼は外」と言って

豆をまくのが一般的ですが、大本では、鬼神として隠退した国常立尊が大本の開祖に神がかりしたことを祝って「鬼は内、福は内」と生豆をまきます。

また、そのほか綾部では2月3日に阿須々伎神社で、茗荷の成長ぐあいで吉凶を占う「茗荷祭」、2月4日、篠田神社では、

筍のできぐあいで豊作を占う「筍祭」が行われるなど、ユニークですが伝統的な神事が行われています。ぜひ、綾部の町に足を運びください。



奈良時代から伝わる神事「茗荷祭」
©一般社団法人綾部市観光協会